

2007年1月17日 FD研修 涌井隆

題目:私が担当している「言語文化交流論」について

1.内容

近代以降異文化に大きく影響を受け日本語で表現した作家・知識人・言論人・教育者などを読む。今までに扱った人物やテキスト:中浜万次郎、福沢諭吉、万延元年使節団、岩倉使節団、津田梅子、渋沢栄一、岩崎弥太郎、夏目漱石、森鷗外、ジョルジュ・ピゴー、小泉八雲、岡倉天心、内村鑑三、新渡戸稲造、永井荷風、野口米次郎、イサム・ノグチ、李香蘭、金子光晴、からゆきさん、金史良、林芙美子、石原吉郎、金時鐘、アレックス・カー、村上春樹、李良枝、山田詠美、リービ英雄、柳美里、多和田葉子、ピアンキアンソニー

2.目標

人物を通して日本の歴史を楽しく学ぶ。詩人の場合は詩も鑑賞。

3.成績評価

発表1/3 レポート1/3授業参加1/3 それほど厳密ではなく、優秀ならA、ちょっと問題ありならB、とう風に大雑把につけている。また、他がだめでもどれか一つでホームランを打つとAをもらえる。

4.アンケート実施 (2005年度)

設問1:テキストは予め教員が指定するのがいいかそうでないのがいいか

結果:過半数が勝手に選ぶほうを希望

設問2:進む速度に関して。一回の授業で一人は速いか、ちょうどいいか。

結果:人とテキストによるが、一回一人は少し速め。

設問3:第一次資料ではない学術的な文章も読むのはどうか?

結果:賛成。という訳で、今年は、小熊英二の『単一民族神話の起源』を読んだ。

5.問題点

テキストを決めていないので、発表者以外は熱心に読んでこない傾向がある。発表者がいない場合は教員による講義のようになることもある。そのような場合、準備に時間をかけても学生のほうが余り読んでおらず反応が乏しいと徒労感が残ることもある。しかし、学生が後で自分の興味に基づいて読み深めてくれればよいのであまり気にはしていない。

6.将来に向けての展望

中国語、韓国語、英語、フランス語など外国語で書かれた詩を日本語に翻訳するという授業をやってみたい。インディアナ大学の Willis Barnstone先生の授業の真似。